

とくべつし えんきょういく しょうがい がくしゅうか む
特別支援教育の生涯学習化に向けて

へいせい ねん がつ にち
平成 29 年 4 月 7 日

もんぶかがくだいじん まつの ひろかず
文部科学大臣 松野 博一

わたし はかねてより、しょうがい にかたがた にほん しゃかい ゆめ きぼう も
私はかねてより、障害のある方々が、この日本の社会でどうしたら夢や希望を持って
かつやく かんが なか いんしやうてき とくべつし えん
活躍していくことができるかを考えてきました。その中でも印象的だったのが、特別支援
がっこう おも ちできしょうがい しんたいしょうがい せいと ほごしゃ で あ せいと
学校での重い知的障害と身体障害のある生徒とその保護者との出会いです。その生徒は
こうとうぶ ねんせい はる がっこう そつぎょう よてい ほごしゃ そつぎょうご まな こうりゅう
高等部 3 年生で、春に学校を卒業する予定であり、保護者によれば、卒業後の学びや交流
ば おお ふあん も ほか おお ほごしゃ
の場がなくなるのではないかと大きな不安を持っておいででした。他にも多くの保護者か
ら どうよう ごいけん いただ
ら同様の御意見を頂きました。

これまでのぎょうせい しょうがい にかたがた たい がっこう そつぎょう とくべつし えんがっこう
これまでの行政は、障害のある方々に対して、学校を卒業するまでは特別支援学校を
はじめとする「がっこうきょういくしさく がっこう そつぎょう ふくししさく ろうどう
はじめとする「学校教育施策」によって、学校を卒業してからは「福祉施策」や「労働
しさく しえん おこな しょうがい にかたがた
施策」によって、それぞれ支援を行ってきました。しかし、これからは、障害のある方々
が がっこうそつぎょうご しょうがい つう きょういく ぶんか さまざま きかい した
が、学校卒業後も生涯を通じて教育や文化、スポーツなどの様々な機会に親しむことが
できるよう、きょういくしさく しさく ふくししさく ろうどうしさくとう れんどう しえん
できるよう、教育施策とスポーツ施策、福祉施策、労働施策等を連動させながら支援して
いくことがじゅうよう わたし とくべつし えんきょういく しょうがい がくしゅうか ひょうげん
いくことが重要です。私はこれを「特別支援教育の生涯学習化」と表現することとし
ました。

もんぶかがくしょう かんてん さくねん がつ もんぶかがくしょう しまかん ぶんや
文部科学省では、このような観点から昨年 12 月に「文部科学省が所管する分野におけ
しょうがいしやしさく いしきかいかく ぼっぼんてき かくじゅう こうひょう あわ しょうない たいせい かくりつ
る障害者施策の意識改革と抜本的な拡充」を公表しました。併せて、省内の体制を確立

するために「特別支援総合プロジェクト特命チーム」を設置しました。さらに、今年度から生涯学習政策局に「障害者学習支援推進室」を新設しました。

今後、この「障害者学習支援推進室」を中心に、全省的に「Specialプロジェクト2020」や特別支援学校等における地域学校協働活動の推進、卒業後も含めた切れ目ない支援体制の整備の促進、障害のある学生への大学等における支援体制の充実等に取り組んでいきます。

各地方公共団体におかれては、障害のある方々がそれぞれのライフステージで夢と希望を持って生きていけるよう、生涯にわたる学習活動の充実を目指し、生涯学習や特別支援教育、スポーツ、文化、福祉、労働などの関係部局の連携の下、国と共に取り組んでいただきますようお願いいたします。

今週（4月2日～8日）は発達障害啓発週間です。

改めて、国と地方公共団体、企業に加えて地域の皆様と共に、障害のある方々が分け隔てなく、互いに尊重し合いながら共生する社会の実現を目指していきたく強く願います。